

マット運動の授業における CLIL 体育の実践に関する研究

2021

磯村 美菜子

広島大学附属中・高等学校
「中等教育研究紀要」第68号別刷

マット運動の授業における CLIL 体育の実践に関する研究

磯 村 美菜子

本研究では、中学3年生のマット運動の授業において、英語で体育を行う CLIL 体育を実践し、その成果と課題について検討を行った。CLIL 体育の実践に当たっては、単元の前半に CLIL 的な活動を含み、1 時間の授業の中でも部分的に CLIL 的な活動を取り入れた。その結果、CLIL 体育を継続して行うことで言語面における成果があることや、思考を軸に置いた探究活動が CLIL 体育を活性化させることが明らかとなった。

1. はじめに：CLIL について

CLIL (Content and Language Integrated Learning) とは、日本語では内容言語統合型学習と訳され、「教科の学習と外国語の習得を同時に達成する目的を持った教育方法」(米山, 2011, p.49) と定義されている。CLIL の主な特徴は、「内容(Content)」「言語 (Communication)」、「思考 (Cognition)」「文化 (Culture)」あるいは「協学 (Community)」の 4 つの軸を中心とした学習方法であり、それらは「4C」として総称されている (Coyle, Hood, & Marsh, 2010)。また、CLIL の特徴の 1 つとして、教育効果を最大限に引き出すために、「目的 (Soft CLIL / Hard CLIL)」「頻度・回数 (Light CLIL / Heavy CLIL)」「比率 (Partial CLIL / Total CLIL)」、使用言語 (Bilingual CLIL / Monolingual CLIL) など、CLIL 授業の構成に関する柔軟性を持っているということが挙げられる。

2. 研究の目的

このように、CLIL は附属学校の強みの 1 つである「グローバルな視点を取り入れた教育研究」として最適な指導方法であるといえる。また、体育は運動やスポーツを媒介として身体活動を通して学習をするという特徴を持っており、言語と体の動きを結びつけながら学ぶことができるため、英語を学習する上でも非常に有効であると言えるであろう。さらに、体育においても CLIL を取り入れることで、体育の「Content」である技能だけでなく「Communication」や「Cognition」、「Community」といった 4C を軸とした授業構成ができ、現行の学習指導要領における体育の目標にも合致していることがわかる。しかしながら、体育での CLIL の先行

実践は未だ少なく、サッカーやバレーボールなどの球技 (二五・伊藤, 2017; 二五・伊藤, 2019) や跳び箱運動 (濱本ほか, 2020)、体づくり運動 (二五・富岡, 2020) に限られている。

そのため、今後の CLIL 体育の研究における発展のためには検討の余地がある。しかも、CLIL 体育の実践が少ない原因として、教材の準備に時間がかかることや、実技授業における安全管理のためであると考えられる。そのため、各領域に応じた CLIL の実践の積み重ねと教材開発が必要であると考えた。そこで本研究では、これまでの授業実践における成果と課題を踏まえ、マット運動の授業における CLIL 体育の成果と課題を明らかにすることを目的とした。

3. 授業実践の概要

3.1 対象と日時

本実践の対象は国立大学附属中学校3年生女子 31 名であり、番号順で構成された 6 つのグループに分かれて活動した。

本実践の期間は、2021 年 9 月～10 月である。

3.2 単元について

本実践は、マット運動の単元で行った。単元の選択理由として、マット運動は小学校の頃から親しんでいる種目であり、技術構造が分かりやすいため、教え合いによるコミュニケーションが生まれやすいと考えた。また、CLIL 授業の構成に当たっては、CLIL の特徴である柔軟性を生かし、「頻度や回数」では、全 8 時間の単元のうち前半の 5 時間を CLIL 的な活動を含む授業 (Light CLIL) とした。また、「比率」においても、1 時間の授業の一部で CLIL 的な活動を行う (Partial CLIL) こととした。具体的には、毎回の準備運動や補助運動、技の特性の理解や技の

ポイントの探究活動においてCLIL的な活動を取り入れた。単元計画は表1の通りである。

表1 単元計画

時間	内容
1	オリエンテーション マット運動の特性について・ヨガ
2	前転系の技の探求
3	前転系の技の実践・後転系の技の探求
4	後転系の技の実践
5	倒立回転系の説明・実践
6	倒立回転系の実践
7	連続技の実践
8	連続技の発表

4. 実際の授業実践について

第1限のオリエンテーションでは、マット運動の特性である「非日常」というキーワードを英単語の“extraordinary”や“unusual”をヒントにしながら考えさせた。また、非日常的な動きのための導入として、ヨガを取り入れて行った。ヨガは世界中で親しまれている身体的エクササイズであり、そのポーズには身近なものの名前が使用されている。以下は、実際に行ったヨガのポーズである。さらに、“pose”という動詞には、「ポーズする」という意味と「なりすます」という意味があるため、ヨガのポーズの名前から動きを想像し、「なりすます」ことで大きな動きで行うことを意識付けた。

《ヨガのポーズ》

- ① Tree ⇒ eagle ⇒ hero [stand]
- ② Cat and cow ⇒ yawning cat ⇒ rabbit [face down]
- ③ Frog ⇒ baby ⇒ fish ⇒ bridge ⇒ flower ⇒ cockroach [face up]

第2限では、準備運動や補助運動、前転系の技の探究活動において、CLIL的な活動を取り入れた。まず準備運動では、これまでの体育授業でも定期的に行っていた「じゃんけん柔軟」を英語版にして行った。“rock paper scissors”や“one two three”などの決まった言葉を繰り返し英語で発することで、大きな声で英語を発することへの恥ずかしさを拭えるのではないかと狙いがあった。



《じゃんけん柔軟の様子》

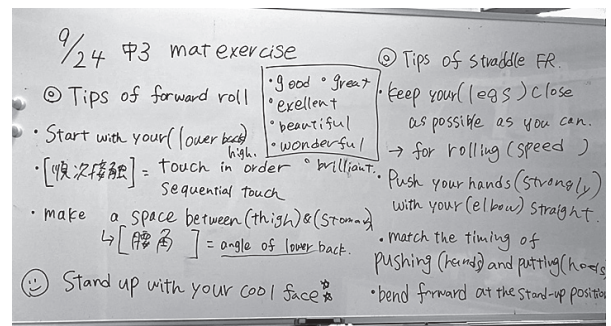
また、ストレッチを英語で行い、体の各部位と、stretch（伸ばす）、bend（曲げる）、rotate（回す）などの動詞を組み合わせることで、体の部位の英語を学習しながら効果的にストレッチをすることができると考えた。次に、補助運動では、準備運動よりも長めの英語の指示を聞き、一連した以下の4つの運動を行った。

《補助運動》

- ① rolling（ゆりかご）
[roll from your back of the head and lower back smoothly]
- ② hand support hand stand（背支持倒立）
[put your shoes on the floor]
[put your knees on the floor]
- ③ shrimp pose（エビのポーズ）
- ④ bridge（ブリッジ）
[put your legs and hands close and stand up]

前転系の技の探究活動では、「Perform the skills which are categorized into the forward roll group smoothly and steadily」という本時の目標に対して、“smoothly”という曖昧な表現を具体化するための前転系の技のポイントをグループごとに探す活動を行った。資料①～③は実際の活動の際の生徒の学習記録である。

第3限では、準備運動と補助運動に加え、前転系の技の特性理解やグループ活動での技の評価、後転系の技の探究活動においてCLIL的な活動を取り入れた。準備運動では、英語を使う場面を増やすために、教師の指示で行っていたストレッチをペアで指示し合いながら行うことで、これまでに出てきていない体の部位の英語や、動作動詞を考えながら活動することを狙いとした。前転系の技の特性理解では、前時の探究活動を踏まえ、整理された技のポイントについて（ ）に当てはまる語句を想像しながら考えた。



《第3限の板書》

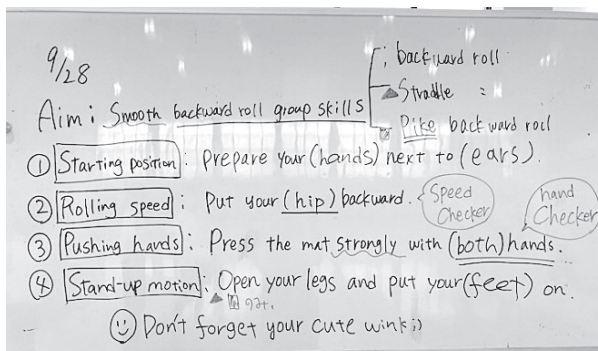
また、技の評価においては、仲間の技に対して、英語で誉める活動を取り入れた。後転系の技の探究活動については、前時と同様に行った。資料④は実

際の活動の際の生徒の学習記録である。



《第3限の探究活動の様子》

第4限では、後転系の技の特性理解においてCLIL的な活動を取り入れた。板書の()に当たる部分をグループで想像しながら考えた。生徒の感想を踏まえ、文章が長くなりすぎないように、ポイントを絞って板書を行った。



《第4限の板書》

第5限では、新たな補助運動、技の特性理解においてCLIL的な活動を取り入れた。具体的には、側方倒立回転の特性である、「体の軸を保ったまま側方に回転する」という動きを、英語名であるcartwheel(車輪)という英単語でイメージさせることを狙いとした。また、主運動である側方倒立回転のための新たな補助運動を取り入れ、ホワイトボードに書かれた運動をどのような動きか想像しながら行った。

《倒立・側転の補助運動》

- ① bear walk (熊歩き)
- ② sea otter walk (ラッコ歩き)
- ③ seal walk (アザラシ歩き)
- ③ hand cart (手押し車)
- ④ happy frog (カエルの足打ち)

第6限以降においては、準備運動及び補助運動のみでCLIL的な活動を用いた。理由として、技の難易度が上がるにつれ安全性の確保がより必要となること、連続技において技能がより複雑になることを考慮したためである。

5. CLIL 体育の成果と課題

本実践で明らかとなったCLIL 体育の成果と課題について、CLILの「4C」の視点から生徒の自由記述の感想を用いて述べる。

5.1 言語の視点から

第1に、言語の視点から述べる。表2は、自由記述の感想に見られた英単語の頻出回数を表したものである。第1限から第3限にかけて、感想を英語で記述した人数と英単語頻出回数が増えていることが分かる。また、英語で感想を書いていた生徒の中には、初めから英語で体育を行うことに好意的な意見を持っていた生徒もいれば、初めの感想には「難しい」や「意味が分からない」などの肯定的でない印象を持っていた生徒が簡単な英語を用いて感想を書くといったケースもあった。

表2 自由記述の英単語頻出回数

時間	1	2	3	4	5
英単語頻出回数	1	17	53	0	4
英語で記述した人数	1	3	8	0	2
総回答数	30	31	29	18	29

さらに、最も英単語頻出回数が多かった第3限の感想からは、以下の記述が見られた。

- ・前回よりすらすら英語でポイントが書けた。
- ・英語で書くのに前より慣れてきたような気がした。
- ・何度も同じ単語を使うから覚えやすい。

このことから、同じ活動を継続して行うことや、同じ単語を繰り返し使うことで、英語を使用することに慣れることができたということが窺える。

他方、体育で英語を使用することについて、以下の記述が見られた。

- ・体育の英語はきっちりしていなくても伝わればいいところが気楽にできて良い。
- ・初めて知る英単語などを自然に覚えようとしていて、体育など他の教科で英語を使うのはいいと思った。
- ・英語も大事だから、英語を取り入れるなら明確に日本語も示してほしい
- ・日本語⇒英語の順で示してほしい

これらの記述から、体育で英語を使用することで、新しい単語を自然と覚えられることや、間違えてい

でも伝わるといふことに気づくことができる一方で、正しく英語を学びたいといった意見もあり、英語学習への意識の差があるということが分かる。

さらに、以下の記述からも、英語の聞き取りづらさや難易度に関する課題があることが分かる。これに対し、繰り返し指示をしたり、英語の後に日本語を繰り返したりすることで、説明に時間がかかってしまうということが懸念される。

- ・英語が難しかった。文法が分からないので時間がかかった。「順番にマットに接触させる」など
- ・英語の指示はちょっとわかりづらかったのと、ききとりづらくなっていうことがありました。
- ・もう少し大きな声で英語の指示をしてもらいたい。
- ・英語はちょっと難しかったです。

これらのことから、言語の視点においては、CLIL 体育を継続することで書くことを中心とした英語の使用に慣れることや、自然と英単語を覚えることができるという成果があった。一方で、上記の課題を解決するためには、CLIL 体育の目標を明確化し、言語と内容のバランスを考慮する必要があるということが考えられる。

5.2 内容の視点から

第2に、内容の視点から述べる。CLIL 体育の内容全体に関して、以下の記述から非日常感や新鮮さといった印象があったということが分かる。

- ・非日常的で面白かった！
- ・新鮮な感じがして面白かったです。
- ・気分転換になってよかった。

また、以下の記述から、技の名前や技の出来を表す形容詞などの英単語をキーワードとして捉えることで、より意識的な運動につなげることができているということが窺える。一方で、ブリッジの例のように、耐久力を要する運動は英語で行うことに適さない場合があるということが分かる。

これらのことから、内容の視点においては、英語にしやすい種目の選択が重要であることや、英語にすることで動きがイメージされやすい活動を検討し取り入れることが必要であるということが考えられる。

- ・英語で表現するのは少し難しかったが、英単語特有のニュアンスや単語からイメージすることによってより体の動きなどが分かりやすくなることもあった。
- ・体育は運動するだけというイメージがあったが、英語を使用することでより意識の高い運動につなげられていいと思います。
- ・英語で表現することで重要なところがはっきりして分かりやすかった。
- ・Wheel で車輪をイメージしてできた。
- ・ブリッジしてる時辛いのに英語でいわれると変換するのやばすぎてブリッジ疲れしました。

5.3 思考・協学の視点から

第3に、思考の視点から述べる。以下の記述から、「想像する」「考える」といった、探究的な学習が英語の使用を促す動機づけとなり、CLIL 体育を活性化させるということが窺える。一方で、考えたことを英語にすることが難しい場合もあるため、適切な足場かけが必要であるということが考えられる。

- ・みんなで単語や意味などを予想するのが楽しかった。
- ・プリントに書くときに英文を皆で考えるのが楽しかった。
- ・新出単語も多かった。意味を推測するのが面白かった。
- ・英語でポイントを考えるのが楽しかった。
- ・英語で表現するのが難しかった。

最後に、協学の視点から述べる。以下の記述から、グループでの関わり合いの際に評価する英語を用いることが効果的である一方で、アドバイスなどの高度な表現は日本語で行うべきであるということが考えられる。

- ・ポイントや感想を言い合うときにも英語を使うと面白い (interesting) なのではないかと思いました。
- ・I want to use the words to reaction.
- ・アドバイスは英語でしにくかった。

これらのことから、思考・協学に類する活動は CLIL 体育を活性化させる一方で、それらの活動に対する適切な足場かけが必要であるということが窺える。

6. 今後の展望

今後の展望について、3つの視点から述べる。

第1に、本実践ではCLIL体育に対して好意的な印象を持った生徒が多いことが分かった。生徒の記述からも、「マットは嫌いだが英語の要素があり楽しかった」というものも見られた。そこで、体育が苦手な生徒でも授業での関わり合いが増え、体育の好き嫌いの二極化の解消に影響を及ぼす可能性があると考えられる。今後は、生徒の体育と英語への愛好度の変容について調査することでその可能性を検証したい。第2に、CLIL体育の教材の汎用性についても検証する必要がある。そこで、CLILの柔軟性を踏まえ、準備運動や補助運動などにCLIL的な活動を取り入れることで、CLIL体育の経験のない教員や教員養成の学生でも段階的に授業に取り入れることができるのではないかと考えている。最後に、これまでの実践には、1単位時間のものがほとんどである。そのため、今回CLIL体育を継続することで言語の視点で良い影響があったことを踏まえると、同じ対象に対して別の単元でCLIL体育を実践することで新たな成果や課題が出てくるのではないかと考えられる。これらの3点について、引き続き実践検証していきたい。

7. 引用・参考文献

- Coyle, D., Hood, P., and Marsh, D., 『Content and language integrated learning』, Cambridge University Press, 2010年.
- 濱本想子・白石智也・赤松一成・敖敦其其格・白石愛・辻亮太・大城穂乃香・磯村 美菜子・岩田昌太郎, 「小学校におけるCLIL体育の授業実践に関する事例研究－「跳び箱運動×感嘆詞」の内容的視点から－」, 『学校教育実践学』, 第26巻, 2020年, 47-58.
- 二五義博・伊藤耕作, 「高専1年生に対する体育CLILの可能性－英語を使用したサッカーの授業を事例として－」, 『大学英語教育学会中国・四国支部研究紀要』, 第14号, 2017年, 125-142.
- 二五義博・伊藤耕作, 「高専1年生に対する体育CLILの可能性(2) 英語を使用したバレーボールの授業を事例として」, 『大学英語教育学会中国・四国支部研究紀要』, 第16号, 2019年, 139-156.
- 二五義博・富岡宏健, 「小学校における体育CLILのあり方について：中学年の体づくり運動を事例として」, 『日本児童英語教育学会研究紀要』, 第39巻, 2020年, 191-207.
- 米山朝二, 『新編：英語教育指導法辞典』, 研究社, 2011年.

The Practical Study of “CLIL Taiiku” in Mat Exercises During Physical Education Classes

Isomura Minako

Abstract:


In this study, “CLIL Taiiku” was practiced during mat exercises in physical education classes for the junior high school third-grade students. The aim of this study was to verify the achievements and issues of the practice. This practice applied “Light CLIL” and “Partial CLIL,” which included CLIL-like activities in the first half of the unit and part of the classes. As a result, it was clarified that continuous “CLIL Taiiku” affects the achievements in language and the cognitive activities improve with the “CLIL Taiiku.”

資料①

中3マット 22nd September 2021 Class (A) 1 . ②

AIM : Let's perform the skills of the forward roll group smoothly and steadily. (前転系の技を滑らかに安定してできるようになろう!)

○滑らかな技をするためのポイントや、練習方法についてキーワードを使いながら、まとめよう!! (日本語でOK)

Forward roll (前転)	Straddle forward roll (開脚前転)
<p>For smooth forward roll . . .</p> <p><u>Look my stomach</u></p> <p>Stand up with your cool face.</p> <p>角度 of lower back is <u>spreaded by our selves</u>,</p> <p>角度 means nice drawing!</p> 	<p>For smooth straddle forward roll . . .</p> <p>Open our legs very much.</p> <p>Push the mat by <u>strong</u> power.</p> <p>Push hands the, <u>earliest of all.</u></p> <p>S-</p> <p>Open our legs when they are over head</p>
<p>KEYWORDS starting position (開始姿勢)、push hands (着手する)、rolling speed (回転力)、open legs (脚を開く)、timing (タイミング)、stand-up motion (起き上がり)、neck (首)、back of the head (後頭部)、elbow (肘)、back (背中)、lower back (腰)、お尻 (hip)、かかと (heel)</p>	

資料②

中3マット 22nd September 2021 Class (B) 1 . ②

AIM : Let's perform the skills of the forward roll group smoothly and steadily. (前転系の技を滑らかに安定してできるようになろう!)

○滑らかな技をするためのポイントや、練習方法についてキーワードを使いながら、まとめよう!! (日本語でOK)

Forward roll (前転)	Straddle forward roll (開脚前転)
<p>For smooth forward roll . . .</p> <p>- <u>UP the lower back at the starting position.</u> Good!! →</p> <p>- push hands <u>strongly</u> and change the power to rolling speed. <u>New key word!!</u> →</p> <p>- 後頭部、首、背中、お尻の順に着く</p> <p>- 起き上がり = 2 x 10 - 1 x 10 x 10</p>	<p>For smooth straddle forward roll . . .</p> <p>・ 肘の時に脚を開く</p> <p>- <u>頭を越すとき、タイミングは脚と肘</u></p> <p>- <u>着手は肘の時に着く</u></p> <p>大事だね!</p>
<p>KEYWORDS starting position (開始姿勢)、push hands (着手する)、rolling speed (回転力)、open legs (脚を開く)、timing (タイミング)、stand-up motion (起き上がり)、neck (首)、back of the head (後頭部)、elbow (肘)、back (背中)、lower back (腰)、お尻 (hip)、かかと (heel)</p>	

☆ 全部5秒以内で☆ Great??

資料③

中3マット、22nd September 2021

Class (B) ①・2

AIM : Let's perform the skills of the forward roll group smoothly and steadily. (前転系の技を滑らかに安定してできるようになるう!)

○滑らかな技をするためのポイントや、練習方法についてキーワードを使いながら、まとめよう!! (日本語でOK)

Forward roll (前転)	Straddle forward roll (開脚前転)
<p>For smooth forward roll . . .</p> <p>back of the head の大事 lower back をまげろ push hands の場所大事 どう大事? 日本語で「良いの?」 言葉にしよう!!</p>	<p>For smooth straddle forward roll . . .</p> <p>stand-up motion には 補助の (stand up) (FS)</p> <p>flexible = soft</p> <p>push hands の位置 E... どこに?!!</p> <p>near or far</p>

KEYWORDS starting position (開始姿勢)、push hands (着手する)、rolling speed (回転力)、open legs (脚を開く)、timing (タイミング)、stand-up motion (起き上がり)、neck (首)、back of the head (後頭部)、elbow (肘)、back (背中)、lower back (腰)、お尻 (hip)、かかと (heel)

資料④

中3マット、24th September 2021

Class (B) 1 ②

AIM : Let's perform the skills of the backward roll group smoothly and steadily. (後転系の技を滑らかに安定してできるようになるう!)

○滑らかな技をするためのポイントや、練習方法についてキーワードを使いながら、まとめよう!! (日本語でOK)

Backward roll (後転)	Straddle backward roll (開脚後転)
<p>For smooth backward roll . . .</p> <p>Set the hands behind the ears at the starting position.</p> <p>Push the mat by hands strongly to roll backward.</p> <p>To keep rolling speed</p> <p>Don't use top of the head.</p>	<p>For smooth straddle backward roll . . .</p> <p>Open legs just before stand-up motion.</p> <p>touching order sequential touch.</p> <p>hip → lowerback → head back of the .</p> <p>Put the knee close to chest</p>

KEYWORDS starting position (開始姿勢)、push hands (着手する)、rolling speed (回転速度)、open legs (脚を開く)、stand-up motion (起き上がり)、top of the head (頭頂部)、ear (耳)、knee (膝)、chest (胸)、lower back (腰)、hip (お尻)、backward (後方へ)

